

## 高齢者の笑顔つなごうプロジェクト 笑顔あふれる地域の実現を目指して ②

◎問い合わせ 高齢障がい課 地域支援係 ☎37-0111

市では、高齢者の生きがい創出を目指し、高齢者が自身の能力を活かし、地域社会に積極的に参加することで、より自分らしく充実したシニアライフを送ること、さらに、そうすることで笑顔あふれる地域の実現を目指し「高齢者の笑顔つなごうプロジェクト」に取り組んでいます。市報かんざき9月号でもお知らせしたとおり、このプロジェクトの第1弾として、大分県佐伯市青山地区で活動されている5人の講師を迎え、「市民支え合いの地域づくりを考える講演会」を9月1日に開催しました。大いに盛り上がった講演会の内容や、第2弾の体験型視察研修についてお知らせします。



## 地域の絆を育んで

できる時に  
できることを  
できる人が

青山地区は、佐伯市南部に位置し、面積の93%が林野、人口582人で、高齢化率は51%。人口の半分が高齢者となっています。

青山女性百人会の活動のきっかけは、災害時の炊き出し訓練から。「自分たちの地区は自分たちで守る」という思いから、どれくらい量の作れば、青山地区内のみならず行き届くのか、訓練や行事の際の炊き出しを重ねる中で身につけていると話されました。



▲熱心に質問する参加者

青山女性百人会が立ち上げた「青山ピッコロ軒」では、地元で採れた野菜や漬物、手作りの菓子類などが販売されています。地域の高齢者が、手作りの饅頭とお茶を味わいながら、世間話を楽しまれています。地域の高齢者の

コミュニケーションの場、生きがいの場となっているようです。

さらに、それまで働いていた60〜80代に加え、若い女性、子育て世代の女性を加えることで、地域の担い手、後継者育成にも一役買っています。

また、青山を更り豊かにする会では、「泥んこバレーボール大会in青山」など子どもから高齢者まで参加できるようなイベントを企画・運営されています。イベントで振る舞うカレーやおにぎりなどは、青山女性百人会も協力しており、それぞれが連携しながら地域活性化のために活動されています。

「できる時に できることを できる人が」を合い言葉に、ピッコロ軒にかかわる人が楽しみながら活動。講演の様子からも皆さんがいきいきと楽しんで働かれています。ことが伝わってきました。

講演を聞いた方からは、「私も高齢ではありますが、前向きに地域に役立つことを考えていきたい」「素晴らしい活動を楽しんでいて感動。私たちも出来たらいいなと思った」など前向きなご意見をいただきました。

## 「見て、触れて、食して」 体験型研修を実施

第2弾として、講演いただいた「青山女性百人会・青山を売り豊かにする会」の活動の様子を視察すべく、体験型研修を実施します。

どのような方が集い、楽しく活動されているのか「見て、触れて、食して」実際に体験していただきます。地域づくりに興味がある方、講演会を聞いて興味を持たれた方、ぜひご参加ください。

### ○対象者

市内在住の高齢者、地域づくりに興味のある方など

### ○日程

11月19日（月）

### ○視察先

大分県佐伯市青山地区

### ○定員 10人程度

### ○移動手段

市のマイクロバス



▲泥んこバレーボール大会 in 青山



▲青山ピンコロ軒で働くメンバー

### ○参加費

1,000円（昼食代込み）

### ○申込締切日

10月26日（金）

### ○申込方法

高齢障がい課地域支援係

☎ 370111

## ◆神崎市でも高齢者の笑顔をつなぐため

市でも、高齢者の方が住み慣れた地域で、安心して自分らしくいきいきと暮らしていくための地域づくりについて考える「みんなで語ろう会」を神崎町、千代田町、脊振町で開催しています。

10年先、20年先も住み慣れた地域で暮らしていくための問題点やその解決方法など、グループワークを行いながら皆さんで意見交換を行っています。

共通して抱える問題もあれば、地域特有の問題もあります。みんなで意見を出し合いながら、解決策を見いだせればと考えています。さらには、地域で暮らす皆さんの中から、助け合いの仕組みが生まれることを期待します。

### 【各地区で出された課題】

- ・高齢者世帯、一人暮らし世帯の増加
- ・免許返納をすれば移動手段がなく、病院受診や買い物に困る
- ・隣近所つながりが希薄化



### 【提案された目指す地域像の一例】

森林の里で元気に百笑できる町づくり

脊振町の語ろう会で出された意見で、緑豊かな脊振で元気に百姓をし、百笑しながらいつまでも元気に暮らせる地域となればとの願いが込められています。

### むこう10軒両隣の千代田町

地域のつながりを増やすには両隣から。隣近所とのつながりを大事にし、笑顔で支

え合う地域を目指すことで、一人ではない、助け合いがあたりまえの地域になればとの願いが込められています。

### 【第4回神崎地区「みんなで語ろう会」開催します】

#### ○日程

10月3日（水）

#### ○時間

19時から20時半

#### ○場所

神崎市中央公民館

第1研修室

#### ○グループワーク

神崎町の目指す地域像について「キャッチフレーズを考えよう」

今後地域づくりについて、協議を重ねながら「神崎市らしい」「神崎市特有」の地域づくり、助け合いの仕組みづくりができればと考えています。

高齢者の笑顔があふれる、市民支え合いの地域づくりを目指して、今後も意見交換を行います。市報かんざきやチラシなどで語ろう会のお知らせを行いますので、参加いただき皆さんの声をお聞かせください。

《市長の部屋》

「奇跡のバナナ」

脊振町にバナナ園地ができたろう！

まさか!!日本で、ハウス無しで、バナナが育つものかと思っていました。テレビ報道では、岡山県でバナナが育ち、デパートではそのバナナが飛びように売れており、しかも皮まで食べられるとのこと。

一方、新聞では、「ふるさと納税の寄附額の高額自治体一覧と返礼品の見直し」の記事が頻りに掲載されています。神埼市の平成29年度における「ふるさと納税の額」の実態は、県内最下位でした。これは、本市がふるさと納税の趣旨に基づく運用に努めてきた結果であると言えます。

しかし、平成28年2月市議会では、田原和幸議員から「ふるさと納税額の多少に関わらず、寄附額は市民への行政サービスの貴重な財源」との強い指摘を受け、返礼品とPRサイトの見直しを行いました。この結果、本年度7月までの県下の寄附額を見ると、本市は20市町中の18位となつていきます。

7月7日の佐賀新聞では、

『ふるさと納税1・3倍』の大見出しの中で、全国上位20自治体の中に、県内4市町（みやき町4位、上峰町5位、唐津市7位、嬉野市17位）が目に入り、その額も数十億円と驚異的金額です。

どうしたら多額の寄附が貰えるのかの思いから、8月1日、みやき町の未安町長を訪ね、ふるさと納税への取組実態を尋ねました。数多くの返礼品と納税にかかるポータルサイトを10社以上との契約、また、ふるさと納税に関する事務の民間委託をされており、即、神埼市で取り組めるかは研究・検討を要するものでした。

ただし、その折、未安町長から日本でのバナナ栽培の情報を知り、さらに神埼市内の休耕農地でのバナナ栽培の協力要請の話聞き、本当にバナナ栽培ができるのだろうかと思いに信じてたかったです。が、私の目で確かめたく、8月9日、岡山県の田中節三氏が栽培する「もんげーバナナ」を見てきました。『凍結解凍覚醒法』によ

り作り出された耐寒性植物バナナで、成長速度も速く、実ったバナナは皮ごと食べられ、露地栽培が可能とのこと。只々、驚きでした。興味のある方は、図書『奇跡のバナナ』をぜひ読んでいただきたいものです。



このバナナを鹿児島県内でも栽培されているとのことでしたので、脊振地区で栽培ができれば、脊振地区の活性化が図れるとの思いから、9月5日、脊振町の区長会と農家有志および市役所職員計23人で、視察に行ってきました。

視察先の東晃氏が経営するバナナ農場は、台風対策などのため、ハウス栽培で、相当の設備投資が必要だったとのこと。視察結果の意見は次のとおりです。

- ・農場を誘致し、事業展開してはどうか
- ・国や県の補助金が活用できるか確認するべきでは
- ・地元主導の協議会を立ち上げはどうか

- ・永年高値で売れるかは見定める必要があるのでは
- ・施設整備の初期費用、台風災害、冷害など費用負担が大きな課題になるのでは
- ・関係機関や地元との調整・連携が必要だろう など



10月17日には、市議会議員の希望者の方々と、鹿児島県のバナナ農場視察を計画しています。今後、本市で、このバナナ栽培ができるのか。どのような形態での栽培が可能なのか。生産性や現実性など、幅広い研究・検討を重ね、早々に結論に導きたい。あなたのご意見を期待し、待っています。

(平成30年9月14日記)

神埼市長

松本 茂幸

夜の市長室

※当日は来庁順で受け付けを行います(1組30分程度)。  
※お住まいの地区に関係なくお越しいただけます。  
※荒天などの場合は、開催の有無をお問い合わせください。

どんなことでも構いません。皆さまの声をお聞かせください!



9月の千代田支所開催分には、6組8人が来庁されました。

○今後の予定

とき	ところ
10月2日(火)	脊振支所
11月6日(火)	神埼市役所

◎問い合わせ 総務課 秘書広報係 ☎37-0088